



Title	コワーキングスペースの実態調査 : 2014年時点の稼働データの分析
Author(s)	阿部, 智和; 宇田, 忠司
Citation	経済學研究, 66(2), 173-180
Issue Date	2016-12-08
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/64303
Type	bulletin (article)
File Information	ES_66(2)_173-180.pdf



[Instructions for use](#)

<研究ノート>

コワーキングスペースの実態調査

——2014年時点の稼働データの分析——

阿部 智和 ・ 宇田 忠司

1. はじめに

本稿の目的は、公表資料¹⁾にもとづき、国内のコワーキングスペースの実態を明らかにすることにある。具体的には、国内の施設の全数に近いと考えられる504スペース(2014年9月の調査時点で閉鎖済みのスペースも含む)のデータを利用し、スペースの稼働期間に焦点を当てる。

ここで、コワーキングとは、「働く個人がある場に集い、コミュニケーションを通じて情報や知恵を共有し、状況に応じて協同しながら価値を創出していく働き方」を意味する(宇田, 2013)。また、コワーキングスペースとは、コワーキングを実践する個人が物理的に共有するワークスペースを指す。

このような働き方や仕事場は、特定の企業内での労働や企業オフィスと比して、ワークスタイルの柔軟性や交流するメンバーの多様性、場の開放性の高さなどが期待されることから注目されている。実際、近年、欧米を中心に各国でコワーキングスペースが次々に開設され、その数は今や世界で約7,800(2015年11月時点)²⁾、国内で400以上(2014年9月時点)に

のぼる。しかしながら、コワーキングという働き方やコワーキングスペースという仕事場に関する現状把握を試みた研究は国内外で着実に増加しつつあるものの、依然として十分ではないと思われる。

とりわけ、コワーキングという現象が勃興するなか、ある地域におけるスペースの開設や閉鎖、稼働期間について包括的に明らかにした研究はほとんど見当たらない³⁾。

そこで、本稿では、関連する領域の研究者はもちろん、スペースの運営責任者や業界に参入を試みる者の実践に資するように、公表資料から得られたデータにもとづき、国内のコワーキングスペースの稼働をめぐる実態を記述していく。

2. データ

本稿の調査対象は以下の手順にしたがって抽出されている。まず、フェイスブックのコワー

は、コワーキングに関するオンライン・マガジンであり、コワーキングに関する大規模な年次調査であるGlobal Coworking Surveyを実施している。

3) 数少ない例外として、たとえば埴淵(2014)が、国内のコワーキングスペースの開設年次や増減についていち早く言及しており、注目に値する。しかしながら、埴淵の分析は、後述するコワーキングJPのデータの上に依拠しており、国内の全てのスペースを網羅しているとはいえない。また、スペースの開設年次や増減について、東京や愛知といった地域や都道府県単位

1) われわれが、2014年に実施した国内のコワーキングスペースの実態に関する質問票調査と並行して収集・整理された資料である。詳細については、2節および3節を参照。

2) deskmagのWebページ(<http://www.deskmag.com/en/first-results-of-the-new-global-coworking-survey-2015-16>)を参照。deskmag

キング JP のグループ・ページにおいて公開されているデータ・セットを利用した⁴⁾。具体的には、調査準備を開始した2014年6月時点において、最新であった2014年1月28日付のファイルを利用している。また、コワーキングスペースの開設数が増加傾向にあることを踏まえ、他のサイトも活用し、データ・セットの更新を行った⁵⁾。これらの作業の結果、国内のスペースのほぼ全数に近い（調査時点で閉鎖済みのスペースも含む）と考えられる504を対象とすることとした⁶⁾。

3. 方法

本稿では、対象となった504スペースに関して、開設時期を特定できた稼働中のスペース、開設・閉鎖時期を特定できた閉鎖済みスペースについて、稼働期間を求めた。その結果、対象が439に絞られた。稼働中のスペースについては、調査終了日である2014年9月3日までの稼働期間を求めた⁷⁾。なお、開設・閉鎖時期が月単位でしか特定できないスペースは、各月の初日（1日）に開設・閉鎖したと想定した。また、開設・閉鎖時期が、月末と記載されている場合には、各月の最終日に開設・閉鎖したと想定した。

4. 分析結果

本稿では、スペースの稼働とドロップインサービスの2軸を用いて、4通りの結果を提示する。すなわち、確認できた全スペース（以下、全スペースと表記）（N=439）、全スペース・稼働中（N=384）、全スペース・ドロップインあり（N=336）、全スペース・ドロップインあり・稼働中（N=296）、の4通りである。

4.1 全スペース（439スペース）

稼働期間について分析対象としたのは439スペースである。表1に稼働期間を示す。最長は285ヶ月（23年9ヶ月）、最短は0ヶ月である。平均は22.56ヶ月（1年10ヶ月）である。

このうち、日本国内で、コワーキングスペースと銘打った施設が開設されたのが、2010年5月15日⁸⁾であること、および、フリーランスのエンジニアであったブラッド・ニューバーグ（Brad Neuberg）が、世界最初のコワーキングスペースとされるスパイラル・ミュージズ（Spiral Muse）⁹⁾をサンフランシスコに開設したのが2005年8月9日であることを考慮に入れ、分析対象をさらに絞り込むこととした¹⁰⁾。

まず、2005年8月9日よりも前に開設していたスペースを除く、432スペース（98.4%）

表1 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間（月）	439	0	285	22.56	22.922
稼働期間（日）	439	28	8677	697.87	695.972

での整理にとどまっておらず、個別スペースのデータにもとづく詳細な記述統計の提示には至っていない。

4) コワーキング JP (<https://www.facebook.com/groups/cowjpp/>)。

5) コワーキングスペース JP (<http://coworking-space.jp/>) や コワーキング.COM (<http://coworking.com/>) などを参考にしている。

6) 宇田・阿部 (2015) や 阿部・宇田 (2015) などでは、対象とするスペースを365スペースとしていた。われわれが2014年7月から9月に実施した質問票調査よりも前に閉鎖されたスペース、調査期間中に開設されたスペースなどは、分析の際の母数としてカウントはしてこなかった。本稿では、それらのスペースも分析対象に含むこととする。そのため、宇田・阿部 (2015) など、われわれの一連の論文と分析対象スペース数は一致しない。

7) 調査については、阿部・宇田 (2015; 2016)、宇

田・阿部 (2015) を参照。

8) 具体的には神戸に開設されたカフーツとされている。『Coworking Magazine』Vol.1の6頁を参照。

9) deskmag を参照 (<http://www.tiki-toki.com/timeline/entry/156192/The-History-Of-Coworking-Presented-By-Deskmag/#vars!panel=1505040!>)。

10) ただし、既存の施設にコワーキングスペースを増設した場合の開設時期は特定できないという問題が残っている。

表2 稼働期間¹¹⁾

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月, S)	432	0	74	20.36	13.409
稼働期間 (日, S)	432	28	2255	631.18	406.326
稼働期間 (月, C)	419	0	51	19.21	11.727
稼働期間 (日, C)	419	28	1572	596.26	355.159

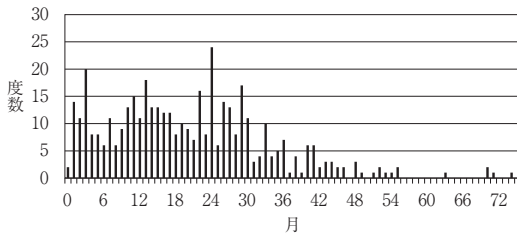


図1 稼働期間

を対象とする。最長は74ヶ月（6年2ヶ月）、最短は0ヶ月である。稼働期間の平均は20.36ヶ月（1年8ヶ月）である。表2に記述統計を、図1に分布を示す。

2010年5月15日より前に開設していたスペースを除く、419スペース（95.4%）の稼働期間の最長は51ヶ月（4年3ヶ月）、最短は0ヶ月である。平均は19.21ヶ月（1年7ヶ月）である。

4.2 全スペース・稼働中（384スペース）

4.2.1 稼働期間

2014年9月時点で稼働していたスペースのうち、開設時期を特定でき、稼働期間を求めることができたのは、384スペースである。表3に、稼働期間を示す。最長は285ヶ月（23年9ヶ月）、最短は0ヶ月である。平均は23.61ヶ月（1年11ヶ月）である。

全体を対象とした分析と同様に、2005年8

表3 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月)	384	0	285	23.61	24.065
稼働期間 (日)	384	30	8677	728.91	730.980

表4 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月, S)	377	0	74	21.11	13.729
稼働期間 (日, S)	377	30	2255	653.06	416.370
稼働期間 (月, C)	366	0	51	19.92	11.962
稼働期間 (日, C)	366	30	1572	616.86	362.764

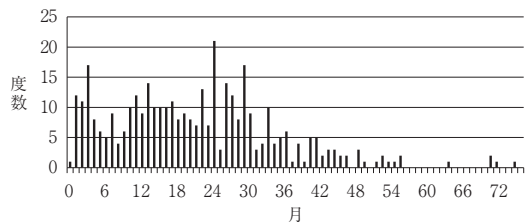


図2 稼働期間

月9日より前に開設されたスペースのみを対象から除外した分析も行った。その対象は377スペース（98.2%）である。稼働期間の最長は74ヶ月（6年2ヶ月）、最短は0ヶ月である。平均は21.11ヶ月（1年9ヶ月）である。記述統計を表4、分布を図2に示す。さらに、2010年5月15日より前に開設していたスペースを除く、366スペース（95.3%）の稼働期間の最長は51ヶ月（4年3ヶ月）、最短は0ヶ月である。平均は19.92ヶ月（1年7ヶ月）である。

4.2.2 開設時期と累積スペース数の推移

図3に全スペースのうち開設・閉鎖時期を特定できた432スペースを対象とし¹²⁾、開設時期および閉鎖済みのスペースの閉鎖時期を示す。2010年から2011年10月までは、ほぼ毎月、1から5スペースが新規に開設されている。その後、2012年4月をピークに月に10以上のス

11) 表における(月, S)と(日, S)はスパイラルミュージズ以降(2005年8月9日以降)に開設されたスペースの月単位と日単位の稼働期間を指し、(月, C)と(日, C)はカフーツ以降(2010年5月15日以降)に開設されたスペースの月単位と日単位の稼働期間を指している。なお、表4, 6, 8においても同様の表記を用いている。

12) ここでは、スパイラルミュージズの開設以降に開設されたスペースのみを分析対象としている。

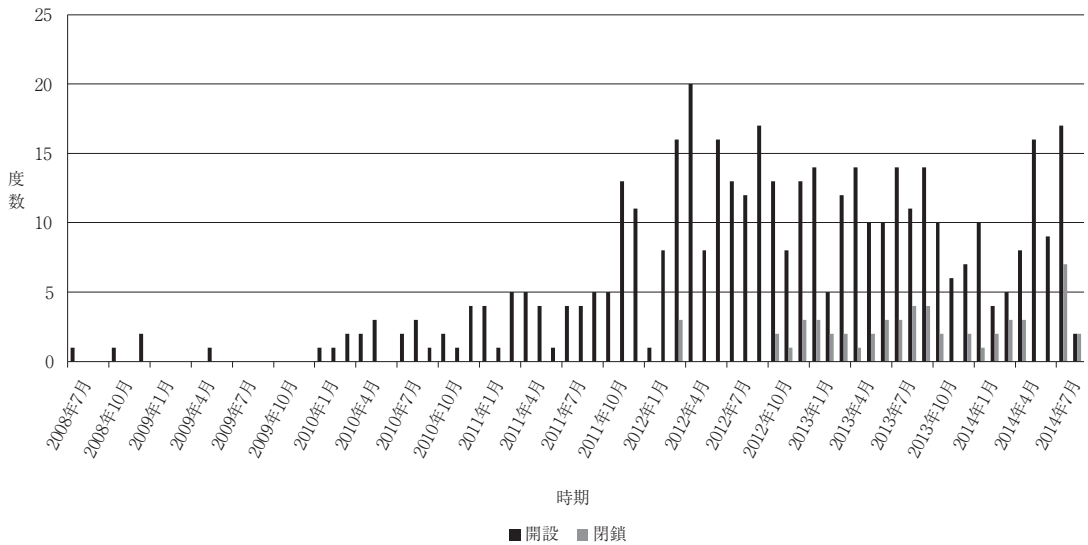


図3 開設・閉鎖時期

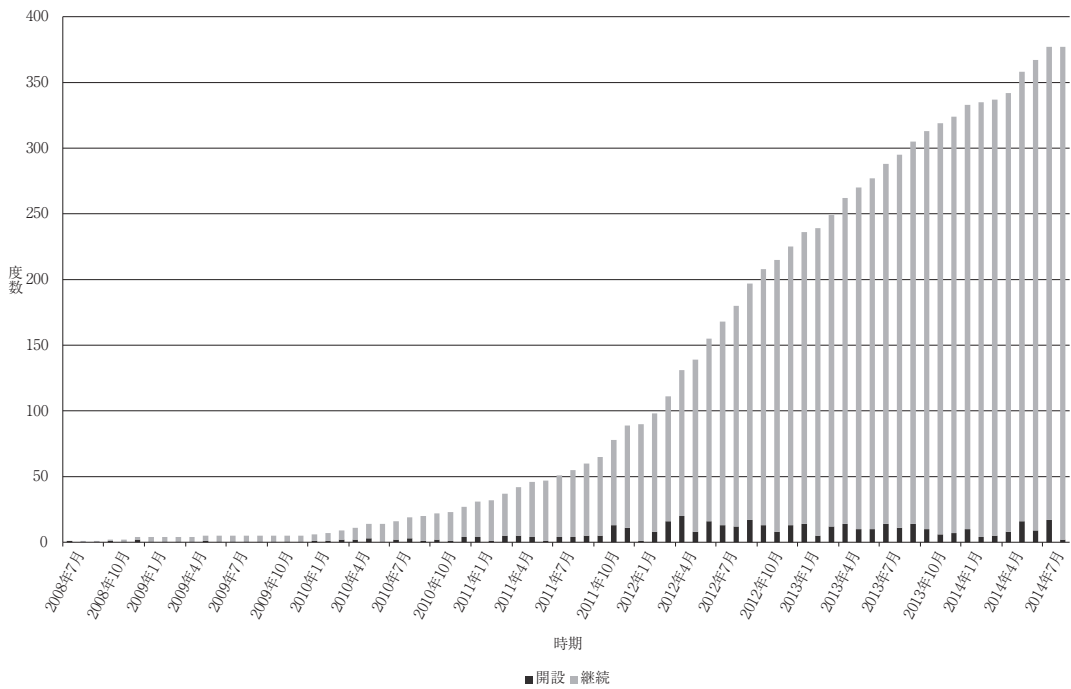


図4 累積スペース数

ペースが開設されている状態が続いている。一方で、2012年10月以降、複数のスペースが閉鎖に至っている。1ヶ月当たりの平均開設数

は、2010年が1.83、2011年が5.17、2012年が12.08、2013年が10.58、2014年(8月まで)が8.88となっている。一方で、2012年10月

表5 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月)	336	0	183	19.39	15.001
稼働期間 (日)	336	28	5573	602.15	454.907

表6 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月, S)	335	0	71	18.90	12.055
稼働期間 (日, S)	335	28	2161	587.31	365.183
稼働期間 (月, C)	333	0	51	18.68	11.684
稼働期間 (日, C)	333	28	1572	580.51	353.858

以降は、ほぼ毎月1つ以上のスペースが閉鎖に至っている。1ヶ月当たりの平均閉鎖数は、2010年から2011年が0、2012年が0.75、2013年が2.33、2014年(8月まで)が2.25である。

ある時点で稼働しているスペースの累計数を把握するために、図4に、当月に新規開設されたスペースと、前月から継続して存在しているスペースを積み上げ棒グラフで示す¹³⁾。

4.3 全スペース・ドロップインあり (336スペース)

以下では、4.1で注目した全スペース(439スペース)のうち、ドロップイン(一時利用)が可能である336スペースを対象を限定する。その理由は、概念的に、場の開放性とメンバーの多様性が期待されるスペースこそが、コワーキングの性質を最も体现していると考えられるからである(宇田, 2013)。

13) 閉鎖済みのスペースも含めると、最短の稼働期間は28日である。当該スペースは、開設後同月内に閉鎖している。このスペースを除けば、最短の稼働期間は30日である。当該スペースは、本稿の分析対象期間においても稼働中のスペースである。すなわち、同月内の開設・閉鎖事例は1つにとどまる。そのため、ある一時点(t_1)で前月(t_0)から引き続き稼働しているスペース数を求める際に、 t_0 時点での稼働中のスペース数から t_1 時点で閉鎖されたスペースを差し引くことで、実態から大きく乖離する可能性はないと思われる。

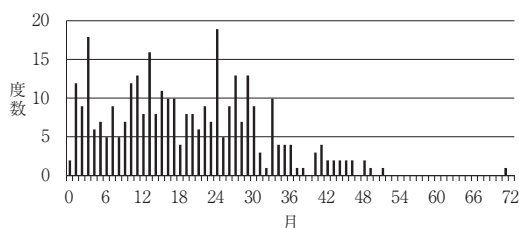


図5 稼働期間

表7 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月)	296	0	183	20.05	15.558
稼働期間 (日)	296	30	5573	621.55	472.022

表5に、稼働期間を示す。最長は183ヶ月(15年3ヶ月)、最短は0ヶ月である。平均は19.39ヶ月(1年7ヶ月)である。

ここでも全てのスペースを対象とした場合と同様の手続きで、分析対象をさらに絞り込むこととした。まず、2005年8月9日より前に開設していたスペースを除く、335スペース(99.7%)を対象とした分析を行う。稼働期間の最長は71ヶ月(5年11ヶ月)、最短は0ヶ月である。平均は18.90ヶ月(1年6ヶ月)である。記述統計を表6、分布を図5に示す。

さらに、2010年5月15日より前に開設していたスペースを除く、333スペース(99.1%)の稼働期間の最長は51ヶ月(4年3ヶ月)、最短は0ヶ月である。平均は18.68ヶ月(1年6ヶ月)である。

4.4 全スペース・ドロップインあり・稼働中 (296スペース)

4.4.1 稼働期間

2014年9月時点でドロップインサービスを提供しており、かつ稼働していたスペースのうち、開設時期を特定でき、稼働期間を求めることができたのは、296スペースである。表7に、稼働期間を示す。最長は183ヶ月(15年3ヶ月)、最短は0ヶ月である。平均は20.05ヶ月(1年8ヶ月)である。

表8 稼働期間

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
稼働期間 (月, S)	295	0	71	19.50	12.339
稼働期間 (日, S)	295	30	2161	604.76	374.018
稼働期間 (月, C)	294	0	51	19.32	11.987
稼働期間 (日, C)	294	30	1572	599.47	363.418

これまでの分析と同様に、ここでも2005年8月9日より前に開設されたスペースのみを対象から除外した分析を行った。その対象は295スペース(99.7%)である。稼働期間の最長は71ヶ月(5年11ヶ月)、最短は0ヶ月である。平均は19.50ヶ月(1年7ヶ月)である。記述統計を表8、分布を図6に示す。

さらに、2010年5月15日より前に開設していたスペースを除く、294スペース(99.3%)の稼働期間の最長は51ヶ月(4年3ヶ月)、最短は0ヶ月である。平均は19.32ヶ月(1年7ヶ月)である。

4.4.2 開設時期と累積スペース数の推移

図7にドロップインが可能なスペースのうち開設・閉鎖時期を特定できた335スペースを対

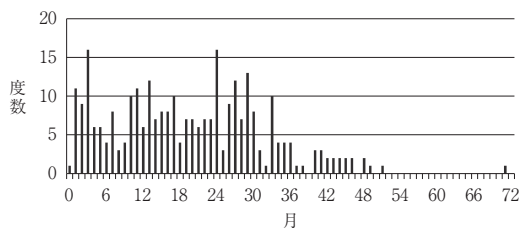


図6 稼働期間

象とし¹⁴⁾、開設時期および閉鎖済みのスペースの閉鎖時期を示す。2010年5月以降、ほぼ毎月、スペースが開設されている。とくに、2011年11月以降は、開設数が10を超える月がかなり散見される。1ヶ月当たりの平均開設数は、2010年が1.00、2011年が3.67、2012年が9.58、2013年が8.42、2014年(8月まで)が7.75となっている。一方で、2012年10月以降は、ほぼ毎月1つ以上のスペースが閉鎖に至っている。1ヶ月当たりの平均閉鎖数は、2010年から2011年が0、2012年が0.58、2013年が1.75、2014年(8月まで)が1.50である。

ある時点で稼働しているスペースの累計数を

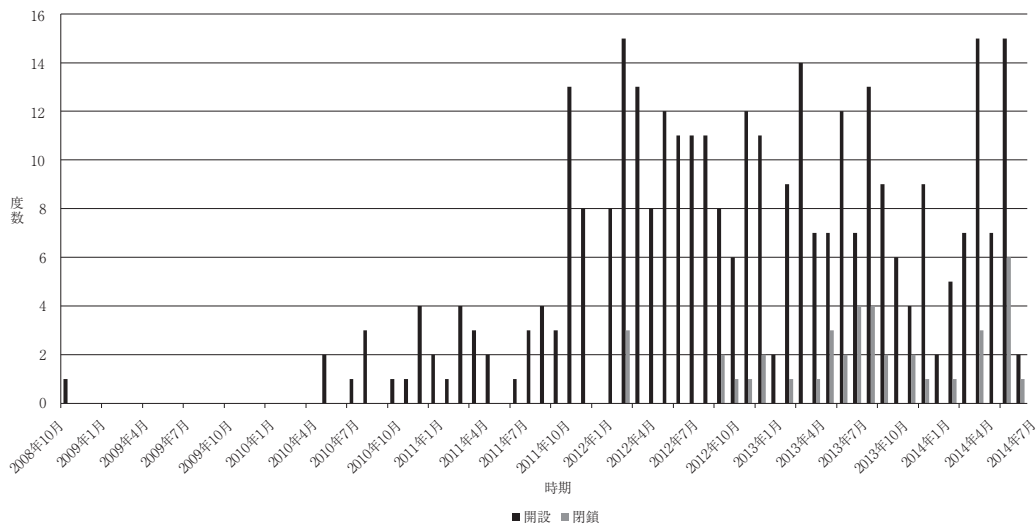


図7 開設・閉鎖時期

14) 分析対象は注釈12)と同様。

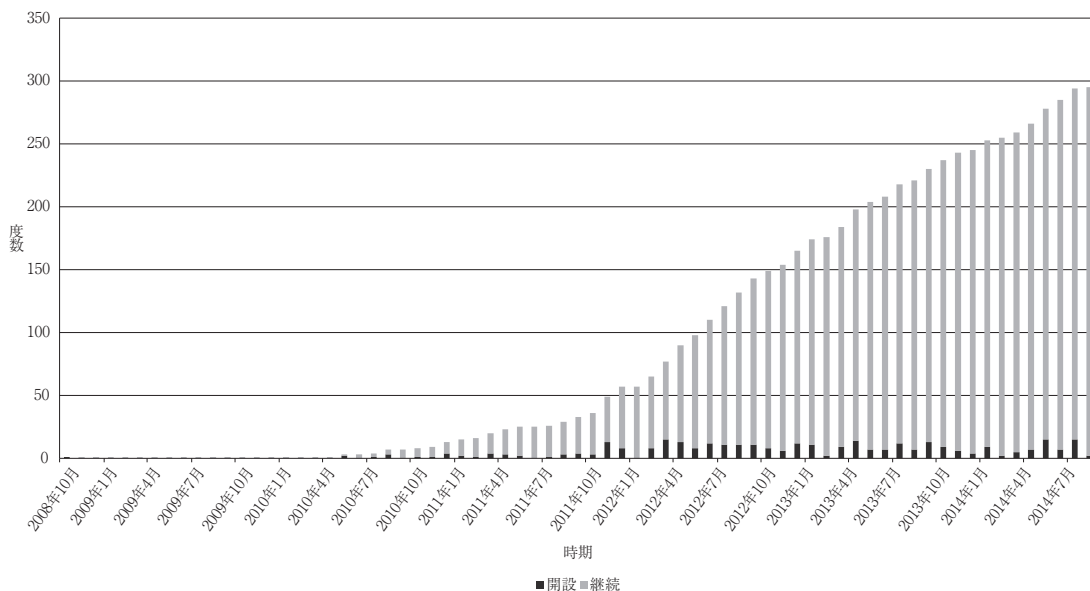


図8 累積スペース数

把握するために、図8に、当月に新規開設されたスペースと、前月から継続して存在しているスペースを積み上げ棒グラフで示す¹⁵⁾。

5. 考察

本稿では、われわれが実施した質問票調査の際に整備されたデータ・セットをもとに、スペースの稼働期間の記述と分析を行ってきた。ここでは、主要な発見事実を全体とドロップインに分けて示す。

5.1 全スペース

全スペースを対象とした場合、稼働期間の平均は22.56ヶ月(1年10ヶ月)である。また、稼働中(2014年9月3日時点)に限った場合、稼働期間の平均は23.61ヶ月(1年11ヶ月)であり、およそ1ヶ月の差がみられる。ただし、大きな差であるとはいえない。

世界最初とされるコワーキングスペースの開

設以降に分析期間を絞った場合、全スペースの平均稼働期間は20.36ヶ月(1年8ヶ月)、稼働中のスペースの平均稼働期間は21.11ヶ月(1年9ヶ月)である。また、日本最初とされるコワーキングスペースの開設以降に絞った場合、全スペースの平均稼働期間は19.21ヶ月(1年6ヶ月)であり、稼働中の平均は19.92ヶ月(1年7ヶ月)である。

1ヶ月当たりの平均開設数は、2012年をピークに漸減傾向にある。1ヶ月当たりの平均閉鎖数は、2013年から閉鎖のペースが高まっている。

5.2 ドロップインが可能なスペース

ドロップインが可能な全スペースを対象とした場合、稼働期間の平均は19.39ヶ月(1年7ヶ月)である。また、稼働中(2014年9月3日時点)に限った場合、稼働期間の平均は20.05ヶ月(1年8ヶ月)であり、全てのスペースを対象とした場合と同様、およそ1ヶ月の差がみられるが大きな差であるとはいえない。

世界最初とされるコワーキングスペースの開

15) 算出方法は注釈13)と同様。

設以降に分析期間を絞った場合、ドロップインが可能な全スペースの平均稼働期間は18.90ヶ月（1年6ヶ月）、稼働中のスペースの平均稼働期間は19.50ヶ月（1年7ヶ月）である。また、日本最初とされるコワーキングスペースの開設以降に絞った場合、全スペースの平均稼働期間は18.68ヶ月（1年6ヶ月）であり、稼働中のスペースの平均は19.32ヶ月（1年7ヶ月）である。

1ヶ月当たりの平均開設数は、2012年をピークに漸減傾向にある。具体的には、2010年から2012年にかけて1ヶ月あたりの開設数は急激に増加し、その後やや低下傾向にある。

1ヶ月当たりの平均閉鎖数は、2013年から閉鎖のペースが高まっている。すなわち、1ヶ月あたりの閉鎖数の推移は開設数の推移と約1年の差を経てピークとなっている点が概ね類似している。こうした傾向は、ドロップインの可否を問わない全スペースを対象とした場合と同様である。

6. おわりに

本稿では、公表資料を通じて収集された、国内の施設のほぼ全数に近いと考えられる504スペース（2014年9月の調査時点で閉鎖済みのスペースも含む）のデータにもとづき、スペースの稼働期間について分析を行ってきた。

その結果、稼働期間が2年弱、開設数は2012年をピークに漸減傾向にあり、閉鎖数は2013年から高まっていることが明らかにされた。ただ、スペースの稼働の有無やドロップインサービスの有無にかかわらず、稼働期間や開設・閉鎖の時期に大きな差異はみられなかった。

これらの理由のひとつは、本稿が分析対象としたのが2014年9月初頭までであり、国内においてコワーキングという現象が萌芽期から浸透期に相当することであると考えられる。

そのため、今後、本稿における発見事実を理論的・経験的に検討するとともに、より長い時

間幅でコワーキングスペースの稼働期間や開設・閉鎖のパターンを明らかにしていくことが求められる。

謝辞：本稿は、JSPS基盤研究(B)（課題番号25285110）、JSPS基盤研究(C)（課題番号26380450; 15K03596）による研究成果の一部を含んでいます。ここに記して深く感謝申し上げます。

参考文献

- 阿部智和・宇田忠司（2015）「コワーキングスペースの様態：国内施設に関する相関分析」『経済学研究』65（1），pp.97-135。
- ・———（2016）「コワーキングスペースの運営の現状と課題」『日本オフィス学会誌』8（1），pp.18-27。
- 埴淵知哉（2014）『平成25年度 特別研究報告書 都市における「共働空間」の現状と可能性』公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター。
- 宇田忠司（2013）「コワーキングの概念規定と理論的展望」『経済学研究』63（1），pp.115-125。
- 宇田忠司・阿部智和（2015）「コワーキングスペースの様態：国内施設に関する記述統計分析」同上誌 65（1），pp.67-95。